

人権だより

市川市立第三中学校
令和8年5月26日発行

考えよう 相手の気持ち 替てよう 慧いやりの心

(第2号)

「いじり」と「いじめ」の違い、考えていますか？

皆さんは「いじり」と「いじめ」の違いを考えたことはありますか？一見、笑いをとるための軽いやりとりのように見える「いじり」ですが、それが本人を傷つけていたとしたら、それは「いじめ」かもしれません。

「いじり」と「いじめ」の違いは、「される側がどう感じているか」が重要です。たとえば、本人に悪気がなかったとしても、相手が「つらい」「やめてほしい」と感じていたら、それはもう「いじめ」なのです。

たとえば、ある生徒の服装や話し方を面白がってみんなでからかう。言った本人は「冗談だよ」と言うかもしれませんが、でも、言われた側が笑えず、心の中で傷ついていたら、それは人権を無視した行為です。言葉には力があり、相手を尊重することの大切さを、改めて考える必要があります。

中学生の皆さんには、「ちょっとした一言」が相手にとっては大きな傷になるかもしれない、ということを知ってほしいと思います。そして保護者の皆様にも、お子さんが「学校でからかわれている」と話したとき、まずは話をしっかり聞いてあげてください。学校は、誰もが安心して過ごせる場所であるべきです。「冗談のつもりだった」で済まされないことがあることを、子どもたちにも伝えていきたいと思っています。

ひとりで悩まないで

「これっていじめかな..」「こんなことで相談していいのかな..」そう思ってひとりでがまんしてしまう人もいます。でも、いやなことをされてつらいと感じたら、相談して大丈夫です。学校には、皆さんの話を聞いてくれる先生や、相談できる人がいます。友だちのことも構いません。また、学校以外に相談することもできます。

これは「いじり」？それとも「いじめ」？

次の場面を読んで、考えてみましょう。

①あだ名の話

クラスで、ある人が少し変わったあだ名で呼ばれていました。みんなは笑っていて、呼んでいる人も「ただのノリじゃん！」と言っています。呼ばれている本人もその場では笑顔で過ごしていました。

②グループラインの話

グループラインで、ひとりの失敗をみんなで何回も話題にして盛り上がっていました。送った人たちは、「ちゃんと笑っていたし、大丈夫でしょ！」と思っています。

これらの場面は、相手がつらいと考えているならすべて「いじめ」につながる行動です。言った側に悪気がなくても、「みんなが笑っていたから」「本人も笑っていたから」ではなく、相手がどう感じたかが大切です。笑いのつもりでも、だれかを傷つけてしまうことがあります。言われた側がその場で笑っていても、本当の気持ちは外からはわかりません。無理に笑っていることもあります。「これくらい大丈夫」と決めつけるのではなく、相手がどう思っているのか、発言や行動をする前に一度立ち止まって考えてみましょう。

先日、「こどもの人権SOSミニレター」を全校生徒に配布しました。学校におけるいじめの他にも、多数のこどもの人権に関する相談をすることができます。手紙で送ることができ、人権擁護委員や法務局の方がそれを読み、悩みを持っているこどもの力になってくれます。また、手紙の他にもラインで相談したり、学校から貸し出しされているタブレットで相談したりできます。今悩みを抱えているが、学校で話にくいと感じていればご活用ください。今悩みがなくても、このように多様な方法で悩みを相談できるということを知っておいてください。

「ここにもあります！相談できる窓口が。「いじめ」しない・させない・見逃さない」
政府広報オンライン(法務省・文部科学省・内閣府政府広報室)
<https://www.gov-online.go.jp/article/201505/entry-8685.html>

